

感動する大学スポーツ総合支援事業「大学生指導員の養成・確保に関する実証事業」
『山梨学院大学発「やまなしスポーツ指導者」養成プロジェクト』との連携

1. 事業の概要（ポンチ絵参照）

・趣旨および内容 ・実施体制 ・仕組み ・検証、評価

2. 派遣までの流れ

- ①全10講義を対面、オンライン、オンデマンドのいずれかの形式で受講
- ②研修終了した学生には修了認定証を発行
- ③「スポカルやまなし」に登録し、市町村とマッチング（実証事業7市町中心に）
- ④派遣に係る具体的な連絡、交渉をおこない、実際の派遣へ

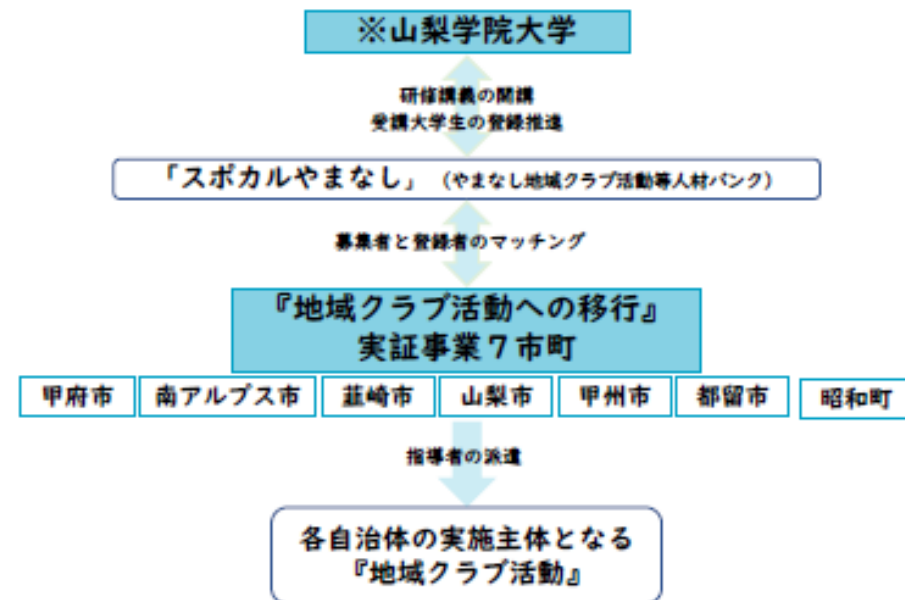
3. 事業成果

- ・県内大学から55名が受講（学院大18名・山梨大30名・都留文大7名）
- ・（1月23日時点）派遣済み4名、マッチング成立6名、マッチング予定14名

実施計画名	山梨学院大学発「やまなしスポーツ指導者」養成プロジェクト
事業概要	①やまなし地域スポーツクラブ指導者認定研修講座の構築 地域スポーツクラブ指導者の養成・確保を目指した研修会制度を構築し、地域スポーツクラブ指導者の認定ができる体制づくりを行う。また、面接講義と遠隔講義（同時双方向型、オンデマンド型）等の多様なメディアを有効活用する研修システムを準備し、指導者の「質の保証」と「量の確保」を目指す。 ②自治体とのマッチングと指導者の派遣 県が設置した「スポカルやまなし（やまなし地域クラブ活動等人材バンク）」を活用してマッチングを行い、「地域クラブ活動への移行に向けた実証事業」を行う7市町へ受講大学生を派遣する。

■大学生指導員の養成・確保に当たっての仕組みやフロー

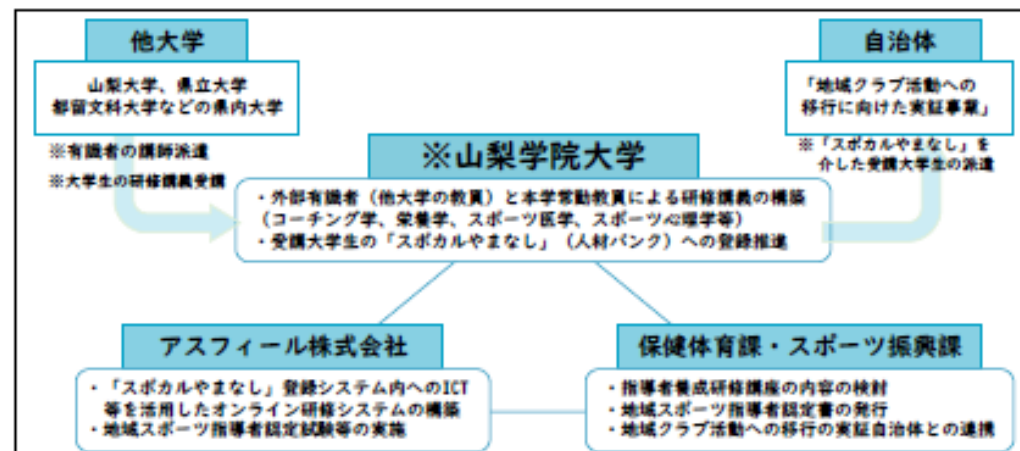
- ・本学のスポーツ科学部の学生を中心に、多くの大学生に研修講義の受講を促し、地域スポーツクラブ指導者として認定。
- ・「スポカルやまなし」への登録を推進し、自治体とのマッチング及び指導者派遣を支援。
- ・卒業後も継続して地域の中学生の指導に当たる仕組みとなり、多くの「やまなしスポーツ指導者」を育成。



■実証事業の検証・評価方法

- 【項目①】研修講義受講者の「スポカルやまなし」への登録状況
・登録者数やその属性、大学別やスポーツ種目別の登録者割合などを算出し、指導者の「量の確保」について評価。
- 【項目②】市町村とのマッチング件数と指導者の「質の保証」状況
・市町村とのマッチング件数やマッチングしたスポーツ種目等を把握し、スポーツ指導現場のニーズへの適合状況を評価。
・指導を行った大学生、指導を受けた中学生、保護者及び自治体関係者等へのアンケート調査を元に、指導者の「質の保証」を評価。

■事業の実施体制図（学内体制に留まらず、地域の組織・団体との連携体制も示すこと）





活動内容 : 南アルプス市地域クラブ活動「フィールドホッケー」

実施主体 : 山梨県スポーツアカデミー(南アルプス市百々3468-65)

参加者 : 白根巨摩中ホッケー部、白根御勅使中ホッケー部の1・2・3年生 男女30名

派遣大学生 : ①山梨学院大学4年生 河西夏帆 さん(白根巨摩中出身)
②山梨学院大学4年生 内藤恵太 さん(白根御勅使中出身)

地域特有の活動
モデル事例

・県広報番組
「豊かさ共創やまなし」
で取り上げられました。
(2/3放送)

・1/19(日)
山梨日日新聞に掲載され
ました。

【河西さん】:地域の指導者になって自分の言葉で子供たちにホッケーの楽しさを教えられる
ことが嬉しい。もっとホッケーを広められるような指導者になりたい。

【内藤さん】:これから社会人になって、指導する回数は少なくなってしまうかもしれないけど、
今後も空いているときは続けていきたい。

